

イースター礼拝

「マグダラのマリヤへの顯現」

ヨハネ 20:1-18

2020.4.12 HKJCF

1

概観

墓に葬られたイエス様は泥棒に盗まれたのはではなく、よみがえられて、最初にマグダラのマリヤに姿を現された。

アウトライン

- | | |
|-------------|--------|
| 1. 弟子たちとの会話 | V1-10 |
| 2. 天使たちとの会話 | V11-13 |
| 3. イエス様との会話 | V14-18 |

2

1. 弟子たちとの会話 V1-10

- 1) イエス様への愛: 油を塗るため(マルコ 16:1); 入口の石の重さを考慮していない。
- 2) 盗まれた予想: 墓泥棒が盛んだった; 弟子たちに報告→弟子たちは隠していない。
- 3) すっぽり抜けたまま: 亜麻布が置いてあつた(V6)、巻かれたままの状態(V7)→墓泥棒ではない; ラザロの復活で経験がある。
- 4) 会話をしない弟子たち: 御言葉と結びつかない信仰; マリヤに何も言わず帰っていった。

3

2. 天使たちとの会話 V11-13

- 1) 悲しみに包まれた: 情報や報告がないまま置いて行かれた→のぞきこむようにした。
- 2) 天使の存在: 神の力による出来事; 契約箱とのつながり=ケルビム(出エジプト記 25:18-19); 恵みの御座(ヘブル 4:16)。
- 3) 質問の意図: 「なぜ泣いているの?」; 空の墓→悲しみではなく喜びと恵みのしるし。
- 4) 盗まれたと主張: 天使を見ても、天使に質問されても、自分の思い込みを貫く。

4

3. イエス様との会話 V14-18

- 1) 見ても気づかぬマリヤ: イエス様だと分からなかつた=園の管理人が園に戻ってきた。
- 2) 「だれ」を捜しているの? : 「何」ではなく、「あの方」を捜している; どうやって運ぶの?
- 3) 視覚がダメなら聴覚: 「マリヤ」(ヨハネ 10:3)=羊飼いが自分の羊の名を呼ぶ。
- 4) 今後の関わりの変化: 昇天の準備=肉体の交わり→靈的な交わり(Iコリント 3:16); 主にある兄弟、子供となる。マリヤ⇒エバ。

5

適用

- 1) 復活が本当なら、生きる希望がある: 生活の問題や試練がどんなに難しくても、罪と死に対して勝利されたイエス様と一緒になら、どんな山でも乗り越えられる。
- 2) 復活が本当なら、伝える福音がある: マリヤは最初の目撃者として、使徒たちに派遣された「最初の使徒」となつた。

6